

低炭素まちづくりの目標と将来像

■ 将来像

低炭素まちづくり計画は、総合振興計画や都市計画マスタープランを上位計画として、都市の低炭素化に向けたまちづくりの方向性を示すものです。

そのため、これらの上位計画の方針と本市の現状と課題を踏まえて、低炭素まちづくりの将来像を以下のように定めました。

『人にやさしく、環境にやさしい活気に満ちたまち志木』

■ 目標

低炭素まちづくり計画は、都市計画が関与できる民生(業務・家庭)部門、運輸部門の一部を対象としており、全ての削減効果を引き受けるものではありません。

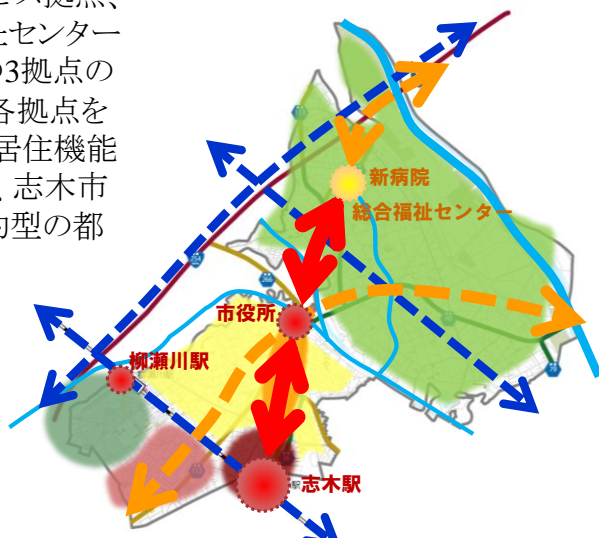
国が行なった「2050 日本低炭素社会シナリオ:温室効果ガス70%削減可能性検討」では、「都市に関連する施策」で、全排出量の19.6%を削減する必要があるとされています。これは、削減効果全体に対して寄与が29%であるとも言えます。

本計画においては、国や環境モデル都市を参考に、2030年までにCO₂排出量を2010年比5.8%削減(市全体で20%削減)、2050年までに17.4%削減(市全体で60%削減)することを目標としました。

土地利用・都市構造分野

拠点・交通軸に人やものが集約するまちづくり

志木駅周辺の商業・業務拠点と市役所周辺の行政サービス拠点、新病院(民営)・総合福祉センター周辺の医療・福祉拠点の3拠点の機能強化を図りながら、各拠点を結ぶ軸上に都市機能や居住機能の集積を推進することで、志木市の特性に応じた軸上集約型の都市構造を目指します。



志木駅東口周辺地区: 商業・業務機能の強化
市役所・本町通り地区: コミュニティサービス機能と高密度居住機能の誘導
本町・柏町地区: 良好な戸建て住宅による居住機能の誘導
幸町地区: 良好な都市基盤を活かした中密度居住機能の誘導
館地区: 集合住宅を中心とした高密度居住機能の維持
宗岡地区: 緑住居住機能(ゆとりある居住空間)への誘導

図 将来都市構造

低炭素まちづくりの方針 ～分野別の基本方針～

歩きやすく、環境に優しい交通手段が利用できるまちづくり

都市の低炭素化に向けた交通分野の取り組みとして、都市の集約化と併せて、歩行者・自転車の移動空間をネットワークとして整備し、その利用者が容易に移動できるまちづくりを目指します。また、既存の鉄道やバスだけでなく、需要に応じた様々なタイプのバスの運行や、超小型モビリティの導入等の可能性を検討し、環境に優しく利便性の高いまちづくりを目指します。

<取り組み>

交通分野

■ 地域特性を踏まえた交通拠点の形成

宗岡地区の交通ターミナルを中心とした移動環境の構築、医療・福祉拠点等と連携したバス待ち環境の整備、誰もが活動しやすいまちに向けたワンランク上のバリアフリー

■ ネットワークの熟成と低炭素化

車両の低炭素化や新規路線導入によるモビリティの確保、道路空間の再構築による公共交通のサービス向上、歴史・文化を楽しみながら健康的に日常生活を過ごせる回遊環境

■ 環境負荷の小さい交通サービスの提供

超小型モビリティの利用を想定した近隣住区

■ 環境に優しい交通モードの選択の推進

エネルギー供給の特性やエネルギー需要密度を踏まえたまちづくり

都市の低炭素化に向けたエネルギー分野の取り組みとして、公共施設を中心に地域の特性に応じた再生可能エネルギー・面的エネルギーの導入を推進し、CO₂排出量の少ないまちづくりを目指します。

また、住宅が密に集積する市街地では高効率機器の導入、広い敷地が確保できる市街地ではパッシブ型環境共生住宅の導入を推進し、低炭素で環境に優しいまちづくりを目指します。

エネルギー分野

<取り組み例>

■ 地域に応じた住宅地の低炭素化の普及啓発

ゆとりある戸建が多い宗岡地区での環境共生住宅・太陽光発電の導入促進、建物密度が高い志木地区での建物の高気密・高断熱化・高効率機器の導入促進、カウンセリング・アドバイザーによる普及啓発、地中熱・下水熱等の未利用エネルギーの導入促進

■ 公共施設の低炭素化の率先導入

市庁舎等の主要な公共施設への太陽光+EV・LED照明の導入、小中学校への太陽光発電・燃料電池・LED照明の導入、上下水道施設への太陽光発電・小水力発電の導入検討、道路施設等の省エネ化、エネルギー教育やシンボル化による意識啓発

■ 民間大規模施設の低炭素化の実現化

健康増進施設の省エネルギー化の検討、高層住宅地域のエネルギー・エリア・マネジメントの検討、情報提供・協働体制による実現化

緑を活かす、楽しむ、守るまちづくり

みどり分野

市内を流れる河川沿いの水辺やみどり、市内に点在する歴史遺産をつなぐ快適な緑陰の歩行空間を整備し、身近にみどりを感じ、触れ合えるまちづくりを目指します。また、熱環境改善に向けて、みどりの微気象緩和機能やCO₂吸収機能に着目して、市街地にみどりを積極的に導入し、市民と共に管理・活用することで、温暖化に適応したまちづくりを目指します。

<取り組み>

ヒートアイランド対策としての熱環境改善に向けた環境整備、水辺・みどり・歴史をつなぐ快適な緑陰歩行空間の整備、一般国道254号バイパスの環境緩衝帯と一体となった休憩施設や市民農園等の整備検討

集約地域における取り組み ～低炭素化に向けたまちづくりを先導的に進めていく地域～

低炭素化に向けたまちづくりを先導的に進めていく地域として、“志木駅東口集約地域”、“市役所周辺集約地域”、“医療・福祉機能集約地域”の3つの集約地域を定めます。

志木駅東口集約地域

志木駅東口駅前からユリノ木通りまでの商業地域を志木駅東口集約地域として設定し、商業・業務サービスと交流の拠点としてのまちづくりを進めます。

駅前には、居住機能に加えて、多様な働き方を可能とする、人が集う街なか居住を推進するため、印刷、OA 機器貸出機能など在宅勤務支援機能を有する企業提携型サテライトオフィスや子育て支援機能の誘致を検討します。

建物の更新時には、再生可能エネルギーや高断熱、高効率の機器の導入など環境にやさしい建物へと誘導します。地上階には商業機能の配置を誘致すると共に、道路に面したオープンスペースを確保することで、まちの活気の創出を図ります。

また、本市の身近な自然に触れ合える特徴を活かし、駅前からいろは親水公園までの散策路の整備やサイクルポートの設置を検討し、健康的に働ける就業環境の提供を目指します。

市役所周辺集約地域

市役所および本町1丁目とその本町通り沿道を市役所集約地域として設定し、行政・コミュニティサービス機能と居住環境が一体となったまちづくりを進めます。

主要幹線交通軸には、コミュニティサービス機能や中層居住機能を誘致し、本市のメインストリートとしての活気と賑わいを創出します。

本町1丁目では、スマートコミュニティ街区化（バス停までの端末交通の強化を推進するとともに、街区単位でのエネルギーマネジメントや住区内での移動を支える緑陰環境整備など、都市構造・交通、エネルギー、みどりの施策を一体的に進めることで形成する未来型近隣住区）を推進することで、環境負荷が小さく、健康的な生活が営める街区の形成を目指します。

現市役所の建て替えに合わせて、建物の低炭素化します。

医療・福祉機能集約地域

総合福祉センター、新病院(TMG 宗岡中央病院)、三ツ木保育園跡地を含む宗岡地区を医療・福祉機能集約地域に設定し、健康的で安全・安心に暮らせるまちづくりを進めます。

総合福祉センターでは、太陽光発電、LED 照明等の導入を検討します。新病院では、建て替えに合わせて、省エネルギー化を検討し、環境にやさしい空間形成を目指します。また、新病院へのバスの乗り入れによる交通結節機能の強化の検討を進めます。



図 集約地域の設定

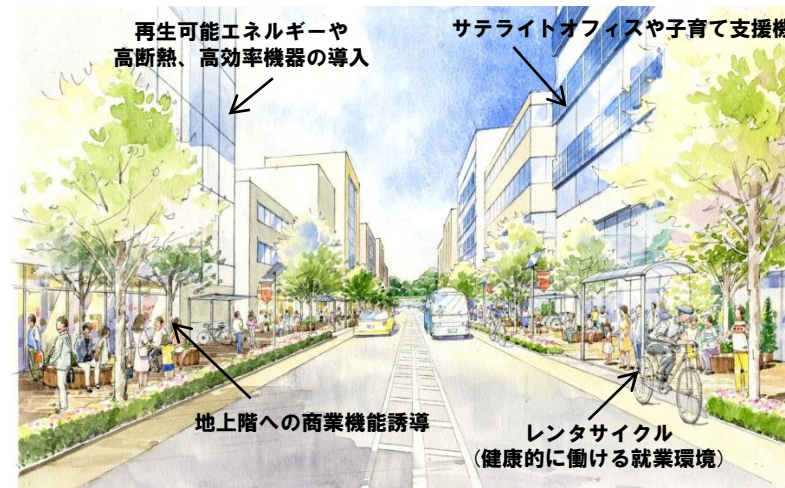


図 本町通りから見た志木駅東口集約地域のイメージ

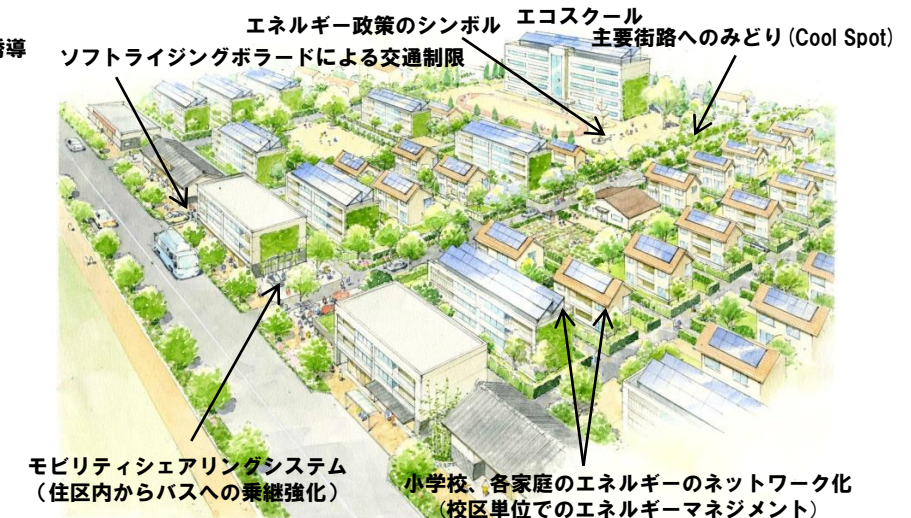


図 スマートコミュニティのイメージ

低炭素まちづくりにおけるCO₂の削減効果

各種取り組みを進めることで、2050年には、運輸部門旅客で約21%、民生部門業務で約19%、家庭で約31%の削減が見込まれ、全体で約38千t-CO₂/年の削減量が見込まれます。これは、運輸・民生部門計の約22%の削減に値します。

運輸・民生部門の削減による市全体の削減率は約20.5%であり、先に設定した都市計画が担うべき削減の目安である17.4%を達成できる見込みとなります。

したがって、他の分野の施策も同様に推進されれば「2050年までに60%削減」を達成できる見込みとなります。

問い合わせ先

志木市役所 都市整備部都市計画課
〒353-8501 埼玉県志木市中宗岡1丁目1番1号
TEL 048-473-1111 FAX 048-487-5353
平成26年7月